

グチと、弱さを口に出すことは、質的に異なるのでは？

師走も押し迫り明日が大晦日というのに、あるメル友と携帯メールでお互いに冗談ぽいメール交換。

その中で、「ひがんで何が悪いの～」とのメールに、『ひがみは単なるグチ。グチと弱音を吐くこととは異なる』と、先日も迷える子羊を励ましたところ。」と返信。

その迷える子羊からのメールとは、「弱さを口に出すってことは、周りがよく思わないから口に出し辛いのではないか。誰でもグチばかり言ってる人とは付き合いたくないのではないか。どうしても、人の目を気にして弱音を口に出せない自分はどうしたらいいのか。」というような問いだった。

「グチと弱さを口に出すことは質的に異なるのでは？

グチは自らの検証、努力を放棄し、周りに責任転化して不平、不満をぶつけるだけ。

弱さは、前を向いている故に自分の至らなさを自覚する（謙虚さ）からこそ、口に出せること。」との趣旨の返信をした。

こうした問いかけ、メール交換のお陰で、自分でも今までそう意識したことのない、「グチ」と「弱音」の異なりが自分なりに整理でき、活用できたよう。

やはり、人と係わり合ってみるものである。

その中で、まだまだ自らの気づかなかったこと、意識していなかったこと等が、整理、自覚できる機会を与えていただくよう。

こう考えると、自らの知識、知恵とは、如何に多くの方々と出会い、係わり合うかにかかっているようにも思える。

今年も多くの出会いがあり、色々と思考する機会と助けをいただき、みなさんに感謝！

さあ、来年も自らが生きていく上での至らなさを更に気づき、助けを請うために、相手の年齢に関係なく、厚かましく人々と係わって行くぞよ！

(2005年12月30日 記)